

# 藤枝市教育委員会

令和7年11月定例会会議録

藤枝市教育委員会 令和7年11月定例会会議録

- 1 開催日 令和7年11月13日
- 2 場所 藤枝市郷土博物館講座視聴覚室
- 3 会議に附した事項 (別紙のとおり)
- 4 出席委員  
教育長 中村 禎  
教育長職務代理者 永田 恵実子  
委員 福與 繁太郎  
委員 渡邊 博文  
委員 永田 奈央美
- 5 出席した事務局職員  
教育部長 増井 孝典  
教育政策課長 金原 雅之  
学校教育監 三須 貞佳  
主席指導主事 道越 洋美  
生涯学習課長 小西 ゆう子  
学校給食課長 村松 雅弘  
図書課長 杉本 守  
総務係長 目崎 真吾

# 教育委員会 令和7年11月定例会

日 時 令和7年11月13日 午前10時  
場 所 藤枝市郷土博物館講座視聴覚室

1 開 会 午前10時

2 会議録署名委員氏名 永田奈央美委員、渡邊博文委員

3 日程第1

第18号議案	第2期藤枝市教育振興基本計画（後期計画）案について
第19号議案	第3期藤枝市小中一貫教育推進計画案について
第20号議案	藤枝市子ども読書活動推進計画（第5次）案について
第21号議案	藤枝市文化財保存活用地域計画案について

4 日程第2

教育政策課長	小規模特認校制度の状況について 第3回 Fujieda English Camp ～ Christmas Event ～の開催について
--------	--

図書課長	藤枝市立図書館における年末年始の対応について
------	------------------------

5 閉 会 午前11時

## 日程第 1

## 第 18 号議案

## 第 2 期藤枝市教育振興基本計画（後期計画）案について

永田恵実子委員

インクルーシブ教育は子どもたちにどのように浸透させたのか。

教育政策課長

本市では、「思いやりあふれる学校づくりの実現」に向け、藤枝市独自のピア・サポート活動を中心に、さまざまな取組を進めている。あわせて、人権教育や道徳教育にも力を入れているところである。

また、実践の場として、特別支援学級と通常学級との交流を進め、一緒に学んだり、行事に参加したりする機会を設けてきた。こうした取組を通じて、障害の有無にかかわらず、すべての子どもがともに学ぶことができる環境づくりを進めている。

永田恵実子委員

これまでの統合保育・統合教育から、インクルーシブ教育へと考え方が移行してきている中で、その違いをしっかりと理解してもらうことが大切だと感じている。障害の有無で区別するのではなく、一人一人を「子ども」として捉えるという視点を、教育の場でも改めて共有し、丁寧に押さえていくことが重要だと思う。

## 第 19 号議案

## 第 3 期藤枝市小中一貫教育推進計画案について

永田恵実子委員

藤枝市が目指すローカル SDGs との関係については、子どもたちが理解するのは難しく、どのように分かりやすく伝えていくのか。

教育政策課長

ご指摘のとおり、SDGs は非常に難しく、理解すること自体が大変なテーマであり、特に小中学生が短期間で十分に理解することは容易ではないと認識している。そのうえで、本計画にローカル SDGs との関係を位置づけた理由としては、藤枝市として SDGs を重要な理念として捉え、すべての政策をそれと紐付けていることが背景にある。

また、SDGs と教育との関係については、非常に深いものがあると考えている。SDGs の実現は大きな課題ではあるが、その根幹には人づくりがあり、その基盤となるのが教育であると捉えている。そのため、多様な視点を踏まえながら、教育の分野として SDGs に向き合い、取組を進めていきたいと考えている。

具体的には、社会科の学習の中で SDGs を取り上げ、学ぶ機会を設けているほか、民間企業からの寄附により、SDGs をテーマに

した冊子を小学校1年生に配布している。この冊子は、シールを貼りながら学ぶ内容となっており、子どもたちがSDGsを身近に感じられるよう工夫されている。こうした取組を通じて、低学年のうちから少しずつSDGsに触れ、理解を深めていくことで、時間をかけて浸透を図っていきたいと考えている。

永田恵実子委員

かけはし期における幼児教育・保育から学校教育への移行にあたり、保育者と教員が、用語の違いなどを含めて互いの立場や考え方を理解し、共通言語を持って必要な知識を共有できているのか。

学校教育監

現在、保育施設と小学校との連絡会や合同研修会を、市全体で行う場合もあれば、地区ごとに実施する場合もあり、これまで継続的に意見交換や協議を重ねてきている。そうした取組を通して、用語や考え方についての共通理解が少しずつ進み、共通言語が増えてきている状況である。

例えば、教員側にとっては「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」といった幼児教育特有の考え方を知る機会となっている一方、保育者側にとっては、「主体的・対話的で深い学び」や「五つの考え方」など、小中学校で大切にしている視点や用語を理解する機会となっている。単に言葉を知るだけでなく、その意味する内容についても、話し合いを重ねる中で理解が深まってきていると受け止めている。

## 第20号議案 藤枝市子ども読書活動推進計画（第5次）案について

永田恵実子委員

父親のよみきかせ実践はどの程度効果がでてしているのか

図書課長

この計画の策定にあたり、保護者を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、「読み聞かせをよくしている」「時々している」を合わせると、8割以上の家庭で読み聞かせが行われていることが分かった。

また、「誰が読み聞かせをしているか」という設問では、母親が55.21%、父親が26.18%という結果であった。5年前と比較すると、母親の割合は大きな変化が見られなかった一方、父親は当時約15%であったことから、約1.6倍に増加している。

当初、パパ講座を始めた頃は、父親と母親が一緒に参加するケースがほとんどであったが、今年度は父親が子どもを連れて単独で参加する事例も見られるようになり、ある回では参加者全員が父親のみという結果もあった。こうした状況から、父親の意識に変化が生まれてきていると感じている。

図書館として目指しているのは、家庭の中に常に本があり、母親も父親も含めた家族全員が、読み聞かせという共通の体験や

言葉を通して心をつないでいくことである。そのため、父親、母親のいずれにも読み聞かせに親しんでもらえるよう、今後もそのきっかけづくりとなるさまざまな取組を提案していきたいと考えている。

永田恵実子委員

小さい頃から関わるのが大切であり、また本は目に見えるアイテムであるため、関わりやすいという点でも、こうした取組は有効だと感じた。

永田奈央美委員

主な取り組みの新規として、1人1台端末を活用した電子図書館サービスの充実とあるが、これは直接小中学生に対して端末上で新書の紹介をしたり、電子書籍を読めるようなサービスを行うとされているのか、それとも学校図書館の司書に配信して、子どもたちにその情報が提供されるのか、具体的な流れを教えてください。

図書課長

現在、小中学生に対して電子図書館を案内する仕組みとしては、1人1台端末を立ち上げた際に表示されるトップページに、すでに「藤枝電子図書館」へのショートカットを設定している。インターネット環境につながっていれば、そのアイコンをタップするだけで電子書籍を閲覧できる環境を整えている。一方で、利用にあたっては利用者カードが必要となるため、カードを作成していない場合はアクセスできない仕組みとなっている。この点については、学校図書館司書が中心となり、カード作成に丁寧に対応してもらっているところである。また、学校での活用を考えると、「全員が同時に利用できなければ意味がない」という現場の声がこれまで多く寄せられてきた。電子書籍についても、誰かが読んでいると他の人が同じ本を読めないという点は紙の本と同様の課題である。こうした意見を踏まえ、特定の出版社が提供する定額型の電子図書サービスも導入している。このサービスでは、個別に書籍を選定することはできないものの、多数の児童生徒が、同じタイミングで同じ本を閲覧することが可能となっている。こうした工夫を重ねながら、電子図書館サービスの充実を図っているところである。

渡邊委員

読書は本当に大切な習慣だと思っている。そのうえで、目標値が、小学生の「1か月に8冊」であり、週に1冊以上読む計算になる。実際の子どものたちの生活の中で、どの程度読めているのかを踏まえた数値なのかが気になった。中学生についても、受験勉強や日常生活との兼ね合いを考えると、この冊数目標をどのような考え方で設定しているのか、その根拠を知りたいと感じた。

図書課長

冊数の数値目標については、上昇指標としたいという考えが基本にある。そのため、今回は前回設定していた目標値に戻したというのが、計画策定にあたっての考え方である。コロナ禍の影響により、図書館利用の実績から見ても読書冊数が大きく落ち込んだことは事実であり、家庭内での読書が増えたという声もあったものの、数値として把握することは難しかった。そうした状況を踏まえ、一定程度落ち着いた段階で新たに計画を策定するにあたり、改めて目標値を整理したものである。

その中で、今回の計画では「地域で」という視点を位置づけている。図書館司書としての立場から言えば、読書指導は幼少期から小学校低学年にかけて、一定程度必要だと考えている。学校現場では教員や学校図書館司書、読み聞かせボランティアなどが協力的に関わっているが、さらに取組を充実させていくためには、地域で活動する人材をより幅広く巻き込み、地域ぐるみで読書環境を整えていくことが重要だと考えている。

第 21 号議案 藤枝市文化財保存活用地域計画

なし

日 程 第 2

小規模特認校制度の状況について

なし

第 3 回 Fujieda English Camp ～ Christmas Event ～の開催について

なし

藤枝市立図書館における年末年始の対応について

なし

閉 会 午前 11 時